

がんという病気は、身体だけではなく「気持ち(こころ)」にも大きな影響を与えます。患者さんが経験する不安や憂うつなどの感情は、病気の診断・治療・再発や治療の中止など、人生に大きな変化をもたらす出来事が生じたときに強く現れます。これらの感情が生じることは、ごく自然なことです。

多くの方は、一時的な気持ちの落ち込みはありますが、少しずつ回復し普通の生活に戻ります。しかし、気持ちの整理がつかず、日常生活や治療に影響を及ぼす方もいます。

ひとりで悩まず「不安な気持ち」や「辛い気持ち」をお話してみませんか？患者さんやそのご家族(患者さんを支える方)が抱えている、「気持ちの辛さ」を少しでも和らげることができるように支援します。がん相談支援センターで皆さんのお話をお伺いすることもできます。

こんなことでお困りではないですか？

- がんと診断されて、不安で仕方ない
- これまで通り、治療も仕事も頑張りたいけれど、前向きに考えられない
- 大切な家族に、病気のことをどう伝えてよいかわからない
- 子どもや親への伝え方で悩んでいる
- 病気をきっかけに家族との関係で悩んでいる
- 自分と同じ病気で悩んでいる人の話を聞いてみたい
- 主治医とのコミュニケーションに悩んでいる
- 家族として、どう接したらよいかわからない

私たちが相談にのります！

緩和ケア科／緩和ケアチーム

様々な専門職からなる緩和ケアチームがあなたのつらさを支えます。

説明資料はこちら

がん情報サービスの冊子

※がん相談支援センターで冊子を受け取れます。

